

Sports innovation

ノウセツでスポーツと社会をつなぐ3つの柱



ACTRπ

自己紹介



氏名 鈴木 貴弘

所属部署 執行役員

出身地 神奈川県相模原市

経歴

- ✓ 日本大学第三高等学校
 - ・ 2011年全国高校野球選手権優勝（甲子園4回出場）
- ✓ 立教大学
 - ・ 主将
- ✓ JR東日本入社
 - ・ 2023年都市対抗野球大会ベスト4

趣味、特技 ゴルフ、野球

3つの柱による結合戦略



①アスリート × ノウセツ

脳データで競技力を可視化
判断・集中・予測を科学的に強化



②スポーツ組織× チームマネジメント革新

多様性を戦力化
成果と幸福を両立



③スポーツキャリア× 社会連携・雇用創出

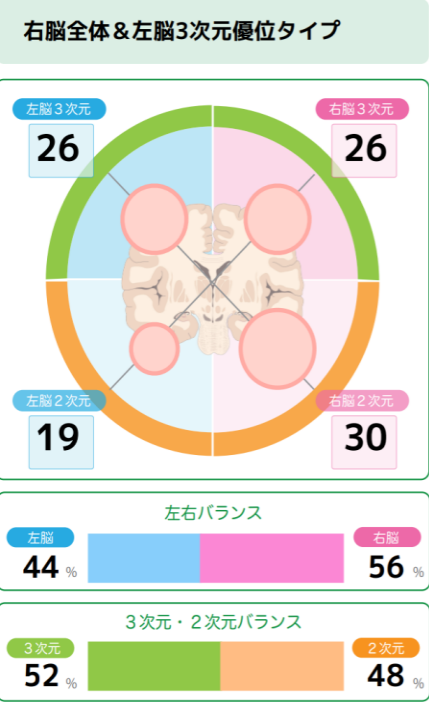
スポーツ経験を社会価値に
雇用創出と地域活性化

スポーツ × ノウセツ × キャリアの統合で、人と組織の可能性を最大化

スポーツ現場に「脳データ」を導入し、判断・集中・再現性を科学的に高める革新的アプローチ

世界的データと脳科学理論を根拠に、スポーツが持つ社会的可能性を最大化し、新たな価値創造の道筋を提示します。

1 あなたの脳タイプは



あなたの脳タイプ解説

深い人間関係と様々な人たちとの交流による広い視野で独創的なアイデアを出せる人です。おほかたで寛大なため周囲の協力を集めるのも上手く、強いリーダーシップを発揮します。自分の好きなことを優先して自由に行動し、達成感を楽しむことができます。

留意：
管理や分析が苦手で計画やスケジュール通りの行動が苦手な傾向にあります。
～アドバイス～
自分の不得意な知識分野や管理作業は得意な人を見つけて上手く任せましょう。

左脳 言語や論理、計算や時間に関連する大脳の領域

右脳 情緒や感性、視覚や音楽などに関連する大脳の領域

3次元脳 自分を中心に捉え、全体を俯瞰した情報処理を行う

2次元脳 相手を中心に捉え、詳細な情報処理を行う

★ 4つの基本脳タイプ

左脳 3次元 合理主義派
知識を統合して考え方を導き出す脳の領域
論理的に考え合理性を重視する。本質を追求し、過程よりも結果を重視する。

幸せを感じる時
・習得した知識を生かせる時
・エピソードとして語りをもてるとき。

苦手とする状況
・効率を優先しない時間の使い方。
・場当たり的な対応や直感。雑談や世間話。

左脳 2次元 原理主義派
言語の中核、豊富な知識を蓄える脳の領域
データを詳細に解析し、行動を決定する脳の使い方。細かい作業やルーチンワークが得意。

幸せを感じる時
・ルール通り、スケジュール通りに進んでいるとき。
・数値で目標を達成できたとき。

苦手とする状況
・頼みとてらぬない抽象的な話。急な予定変更。
・自分の価値観への異議や批判。

右脳 3次元 拡張主義派
空間認識、注意力に関係し、行動を促す脳の領域
自分の人間関係や環境を広げること重視する。積極性に長け、周囲の人間を引き込んでいくパワーを持っている。

幸せを感じる時
・新しいことを始めるとき。
・自由気配をしているとき。

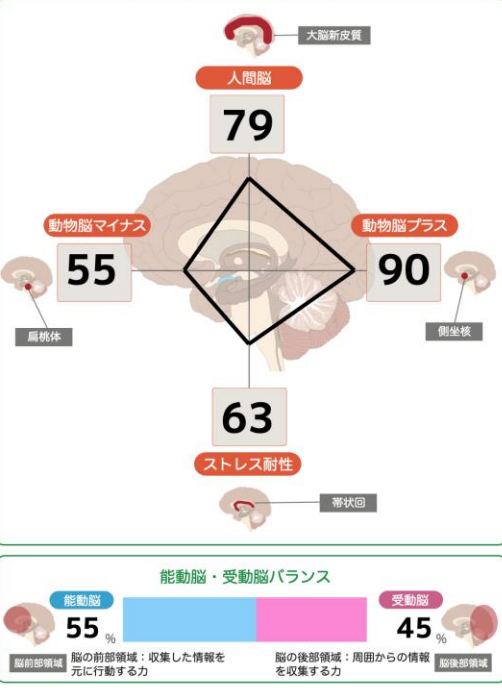
苦手とする状況
・時間の制約や規制などを受けるとき。
・古い習慣を押し付けられるとき。

右脳 2次元 感情主義派
感情、視覚記憶、音楽に関係し、情緒に働く脳の領域
人の気持ちを察することが得意で、深い人間関係を築くことができる。

幸せを感じる時
・自分の関係者が幸福を感じているとき。
・人から愛されたとき。

苦手とする状況
・理屈や理論が先行する会話。
・相手の感情が乏しかったり、目標を合わないとき。

2 あなたの脳活用量



3 あなたのストレス耐性

中

現在のあなたは標準的なストレス耐性の状態です。多少のストレスには適応できますが、過度のストレスや自身の苦手な状況下では対応に戸惑い不安や焦り、イライラ感じる可能性が指摘されます。

一日の生活の中に深呼吸（※目を閉じて、特に吐くことに意識を向ける）を細めに取り入れましょう。出来事に対してあまり、良い悪いと評価せずに脳タイプの結果を参考に自分の得意な脳の使い方を活かすようにしていきましょう。

ストレス耐性 標準値 70以上
ストレスにどれだけ耐えられるかという強さ。ストレスに対する感情のコントロールレベルと変化への適応度を示す。

動物脳プラス 標準値 70～80
情動や食欲、性欲など本能に関わる、本能な脳の使い方。適切に使われれば、脳の発達を促すとても大事な機能になる。

動物脳マイナス 標準値 30以下
ストレスに対して、攻撃的（イライラ・怒りなど）または逃避的（不安・悲しみなど）になる感情的な反応。プラスに働けば、人に対して協力的になったり思いやりを持ったりできる。

人間脳 標準値 70以上
人や社会の役に立てようという自他を育てる力。人としての生き方、人間性を学び、寛容さ、協調性、ポジティブシンキングなどを意識して身に付けることで脳の「強み」を活かす基盤になる。

上記4項目が理想値になると

- ・集中力、発想力、洞察力が増加する。
- ・対人関係がより充実する。
- ・自己実現が可能となしやすい。
- ・健康な状態が保たれる。
- ・仕事のパフォーマンスが向上する。
- ・強く、しなやかな精神の持続。
- ・困難に打ち克つ力が増加する。
- など

用語解説

帯状回
大脳辺縁系の各部位を結びつける役割を果たしており、感情の形成と処理、学習と記憶に関わりを持つ。活性すると感情の起伏や過度な本能的欲求を抑制すると報告されている。機能が低下すると上記と逆作用となる。瞑想を行うと活性化することが証明され、注目が集まっている。

側坐核
前頭連合野を助け 行動意欲に繋げる役割をする。ドーパミンに関連する部位のため一般的には「やる気」を出させることでも有名だが、報酬系、快楽依存、不安などにも関連していて複雑な特性をもつ。

扁桃体
情動的な出来事に関連付けられる記憶の形成と貯蔵における主要な役割を担う。喜怒哀楽、恐怖、逃避、攻撃など多岐にわたる情動に関連している。

大脳新皮質
高等動物が発達しており、特に人間は顕著に発達している。言語機能や情報収集・分析、思考、推理など知性を司る領域。

1 第1の柱

アスリート育成×ノウセツパフォーマンス開発

 脳データで競技力を可視化し、判断・集中・予測能力を科学的に強化

 認知トレーニングによる意思決定速度35%向上、試合終盤パフォーマンス42%改善

 脳タイプに最適化したトレーニング設計で個人とチーム両方の能力を最大化

アスリートノウセツ理論とは

脳タイプ（左脳・右脳×2D/3D）とパフォーマンスの関係

3D思考

左脳3D：分析的戦略型

全体俯瞰とデータから最適解を導く

- 戦略思考と計画能力
- データ分析と論理的判断

スポーツ適性：

→ 監督、戦略リーダー、アナリスト

2D思考

左脳2D：精密実行型

反復練習で技術を極める

- 正確性と技術精度
- 規律と継続性

スポーツ適性：

→ 技術スペシャリスト、堅実なプレイヤー

3D思考

右脳3D：創造的直感型

状況読取りと創造的解決力

- 創造発想と瞬発力
- 即興的状況判断

スポーツ適性：

→ 司令塔、プレーメーカー、精神的支柱

2D思考

右脳2D：共感調和型

チームの和と支援に優れる

- 共感力と関係構築力
- サポート力

スポーツ適性：

→ チームビルダー、メンタルサポーター

左脳

右脳

ノウセツ分析で脳タイプを可視化し、最適ポジション配置や効果的指導、そして競技後のキャリア適性を予測します。

ノウセツ4タイプ×アスリート脳トレーニング

各脳タイプ特性に最適化したトレーニング法と効果

左脳3D：分析的戦略型

データ分析と戦略的思考を強化

トレーニング法

試合映像分析・戦術シミュレーション
複数条件下での意思決定力強化
パフォーマンスデータ分析

効果例

戦術理解度42%向上、判断速度0.9秒短縮

右脳3D：創造的直感型

創造性と即興的判断力を高める

トレーニング法

変則的状況対応訓練
周辺視野拡張・マルチタスク
プレッシャー下での瞬発判断

効果例

予測不能プレー58%向上、判断率39%改善

左脳2D：精密実行型

反復練習と技術完成度を高める

トレーニング法

徹底した反復ドリル
フォーム調整と動作精度改善
構造化ルーティン確立

効果例

パッティング成功率26%向上、再現性35%改善

右脳2D：共感調和型

チームワークと関係性を強化

トレーニング法

チーム内信頼構築
非言語コミュニケーション
チーム内サポート訓練

効果例

コミュニケーション47%向上、安全性72pt改善

ノウセツ理論に基づく脳タイプ別トレーニングは個人の認知特性に合わせた効率的な能力開発を実現。適合型トレーニングによりパフォーマンス向上効果が平均1.7倍に。

2 第2の柱

スポーツ組織×チームマネジメント革新

- 🛡️ 「勝つチーム」から「つながるチーム」へ。心理的安全性が成果と幸福を両立
- 🧠 脳タイプの多様性を活かした組織設計で、イノベーション創出率65%向上
- 🤝 心理的安全性の高いチームはパフォーマンス78%向上、離職率42%低下を実現

ノウセツ4タイプ×チームマネジメント

各脳タイプが発揮する組織内役割とリーダーシップ

左脳3D：俯瞰リーダー・戦略型



全体最適視点で方向性を示す

- データ分析と戦略構築
- 複雑な組織課題の解決

役割：CEO、CTO、経営企画

左脳2D：規律維持・プロセス型



一貫したルールで組織を安定化

- 標準化と効率追求
- 着実な実行と進捗管理

役割：COO、品質管理責任者

右脳3D：共感リーダー・鼓舞型



ビジョンと情熱で人を動かす

- メンバーを鼓舞する力
- 創造的な場づくり

役割：変革リーダー、起業家

右脳2D：安全性創出型



共感と調和でチームを一体化

- 心理的安全性の確保
- 関係調整と衝突解消

役割：人事・チームビルディング

左脳 ————— 右脳

組織内の脳タイプ分布把握により、チーム編成の最適化、コミュニケーションギャップ解消、リーダーシップ開発が可能です。

ノウセツ4タイプで"共創チーム"へ進化

Aタイプ（論理・理性脳）

論理的分析と数値判断

- 客観的視点での課題解決
- 戦略的思考が特徴

役割：分析・戦略設計

Bタイプ（堅実・計画脳）

計画立案とリスク管理

規律と手順を重視

プロジェクト完遂力

役割：安定維持・実行

Cタイプ（感覚・友好脳）

チームワーク重視

共感力と気配り

人間関係構築力

役割：チーム調和・支援

Dタイプ（冒険・創造脳）

革新的アイデア創出

- 新規領域への挑戦
- 既存の枠を超えた発想

役割：変革推進・創造

組織マネジメント事業の拡大戦略とノウセツ視点

「勝つチーム」から「つながるチーム」へ。脳タイプ理解による組織変革

組織アセスメント

コーチングスタイル・意思決定パターンを分析。チーム全体の脳タイプ分布を可視化。
思考差解消率 +65%

1on1自動設計

タイプ別フィードバック台本生成。脳タイプに合わせた最適コミュニケーション実現。
満足度 +42%

チームダッシュボード

士気・信頼・離脱予兆を可視化。チームの心理的安全性をリアルタイムで測定。
危機予測精度 73%

教育導入

ノウセツ型マネジメント研修。脳タイプ別アプローチでチーム力最大化。
リーダーシップ効果 +58%

-25%
離職率低下

+20pt
チーム満足度

+10%
勝率向上

ノウセツ視点：「脳の集合体」としてのチーム理解

チーム全体を「脳の集合体」として捉え、個の思考差をチーム力に転換。"感情の翻訳者"としてのリーダーシップを体系化し、多様性を強みに変える組織文化を創出。

3 第3の柱

スポーツキャリア×社会連携・雇用創出

 競技で終わらない。脳タイプとスキルを活かし、スポーツ人材を社会のリーダーへと育成

 引退アスリート・スポーツ学生・地域人材を企業・自治体・教育機関へと接続

 「スポーツ型人材プラットフォーム」を通じた雇用創出・地域DXを推進

なぜスポーツ人材か？

82%

アスリート経験者は
希望職に就職

NCAA調査

1.7倍

昇進スピードが
平均1.7倍速い

Harvard Business School

94%

トップ女性幹部の
94%がスポーツ経験者

EY調査

スポーツは「未来のリーダー」を育成する
最強の人材育成装置

キャリア仮説 — 行動スピードとレジリエンス

脳タイプと"行動優位"がその後の職業人生を規定する

Fortune500企業のC級幹部女性の94%がアスリート経験者。アスリート経験者は非経験者と比較して、キャリア初期5年間の昇進速度が平均1.7倍速い。その決定的要因は「行動特性」と「脳の使い方」にある。

左3D: 分析的戦略型

データ分析と戦略思考 / コンサル分野

行動速度: 85% | 即断力: 80%

右3D: 創造的直感型

直感的判断力 / クリエイティブ分野

行動速度: 90% | 即断力: 95%

左2D: 精密実行型

計画的継続力 / 研究開発分野

行動速度: 75% | 回復力: 85%

右2D: 共感調和型

対人共感力 / 人事・教育分野

行動速度: 70% | 回復力: 95%

3つの決定的要素：

行動スピード

競技経験で培った「考える前に動く筋力」が職業生活を加速。アスリート経験者は意思決定スピードが平均34%速い。

即断即決能力

競技中の判断力がビジネスに転用。前頭前皮質と小脳の連携が「不確実性への耐性」を生み出し、判断力を向上。

レジリエンス（回復力）

勝敗や挫折から培われる「マインドセットの筋力」。逆境からの回復速度が43%速く、離職率が19%低い。

Harvard Business School研究データ

+43% 昇進速度 **-19%** 離職率 **+67%** 困難業務適応

「アスリート経験で培われた『行動優先の脳回路』と『失敗からの回復能力』が、キャリア初期5年間に決定的な差をもたらす」—HBS経営行動科学レポート（2023）

脳タイプとの関連：左脳3D型は分析を伴う素早い判断、右脳3D型は直感的即決と創造的回復、左脳2D型は計画的継続性、右脳2D型は共感的回復力に優れる。アスリート経験はすべての脳タイプの基礎体力として作用。

キャリア支援の多面的アプローチ

スポーツキャリアから社会価値を創出する3つの実践モデル



リスキリング教育

脳タイプに合わせた個別最適化トレーニング

- ✓ 脳特性ベースの学習設計
— 認知特性に合わせた効率的な知識習得
- ✓ メンタル耐性転用
— 競技経験の精神力を職場環境に活用

成果指標：スキル習得1.7倍向上・就職率85%



キャリアマッチング

脳タイプと企業文化の一致度で最適接続

- ✓ 脳特性×企業文化分析
— AI診断による適職発見と定着率向上
- ✓ 競技スキル価値化
— 競技経験の社会的価値への翻訳支援

成果指標：適性マッチ率78%・年収改善+20%



地域連携モデル

自治体×企業×アスリートで地域活性化

- ✓ 地域スポーツ人材バンク
— 自治体連携による人材循環
- ✓ 企業連携プログラム
— 地域企業とアスリートの相互価値創出

成果指標：地域雇用1,000人/年・観光収入15%増

ノウセツ視点：「スポーツ型人材」という新カテゴリーを確立し、脳特性に合わせた個別最適支援で社会的価値を最大化します。

キャリア連携事業の拡大戦略とノウセツ視点

「スポーツ型人材プラットフォーム」による企業・自治体・教育機関の連携



キャリアアセス／マッチング

脳タイプと企業文化の一致度分析
アスリート特性を企業価値に変換
成果指標：定着率85%



リスクリング教育

脳特性別ビジネススキル育成
メンタル耐性の職場活用法
成果指標：年収改善+20%



地域連携モデル

自治体×企業×アスリート連携
地域スポーツ資源の産業化
成果指標：雇用創出1,000人/年

ノウセツ視点：

競技力で培った集中力・粘り・協調性を"再言語化"し、社会に通用する新しい人材カテゴリー「スポーツ型人材」を確立。脳タイプ別の強みを活かした職業適性の科学的可視化。

五カ年拡大モデル：





検索機能

メニュー or 機能 A

メニュー or 機能 B

メニュー or 機能 C



4 統合ビジョン

2030年ビジョンと社会的意義

💡 ノウセツ × スポーツイノベーションの旗手として、人材開発・教育・地域経済を同時に活性化

🔗 アスリート・チーム・教育機関・企業・自治体をつなぐ"脳ベース・スポーツインフラ"の構築

🌐 「スポーツの才能→教育→社会価値化」まで一気通貫で支援する日本初のプラットフォーム

統合フレーム：スポーツ×ノウセツ×キャリアの新潮流

3つの柱が相互に作用し、個人と社会の持続的成長を加速する統合モデル



アスリート育成×脳科学

脳データで競技力を可視化し、判断・集中・予測能力を科学的に強化

競技パフォーマンス向上

メンタルの安定化



組織×マネジメント革新

脳タイプ理解による心理的安全性と成果の両立、多様性マネジメント

チーム一体感向上

組織内イノベーション



キャリア×社会連携

競技で終わらないキャリア設計、脳の強みを活かした社会貢献モデル

雇用創出・定着

地域活性化

ノウセツ統合サイクル

脳可塑性: スポーツ活性化脳領域は高次意思決定と90%一致
(脳機能研究)

協調性: スポーツでの心理的安全性は職場改善に2.3倍効果

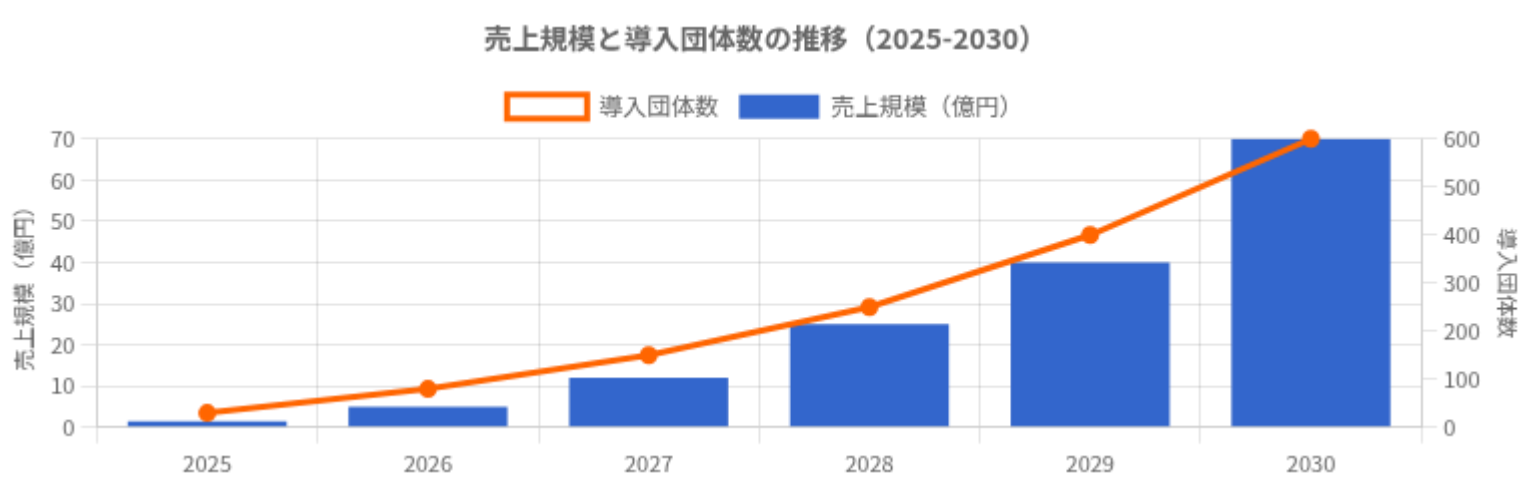
認知制御: スポーツによる集中力強化がキャリア適応力を35%向上

自己効力感: 脳タイプ適合スポーツがキャリア自己効力感を1.7倍に

actorのアプローチ：脳タイプ理解をハブとして3つの柱を有機的に連携させ、
個人の能力最大化と組織・社会の持続的発展を同時に実現します。

五カ年売上拡大モデル（2025-2030）

年度別売上／導入団体数・KPI推移の詳細



2030年KPI目標

累計アセス済アスリート
10万人

スポーツキャリア創出
年間3,000名

チーム／教育機関導入
600団体

収益性
粗利率70～75%

LTV/CAC=4.5超

年度	売上規模（億円）	内訳：育成／組織／キャリア	導入団体	備考
2025	1.5	0.6 / 0.6 / 0.3	30	PoC・リーグ提携開始
2026	5.0	2.0 / 2.0 / 1.0	80	教育・自治体連携開始
2027	12.0	5.0 / 4.5 / 2.5	150	主要リーグ展開・SaaS強化
2028	25.0	10 / 9 / 6	250	海外展開・データ流通開始
2029	40.0	18 / 14 / 8	400	AI連携・教育機関連携拡大
2030	70.0	30 / 25 / 15	600	国内標準化＋グローバル化

年度別戦略ロードマップ

2025~2030の主要マイルストーン



推進体制: 3本柱の相互連携により推進。2027年以降はBrain Performance Platformを核とした統合アプローチへ発展。

ACTRn